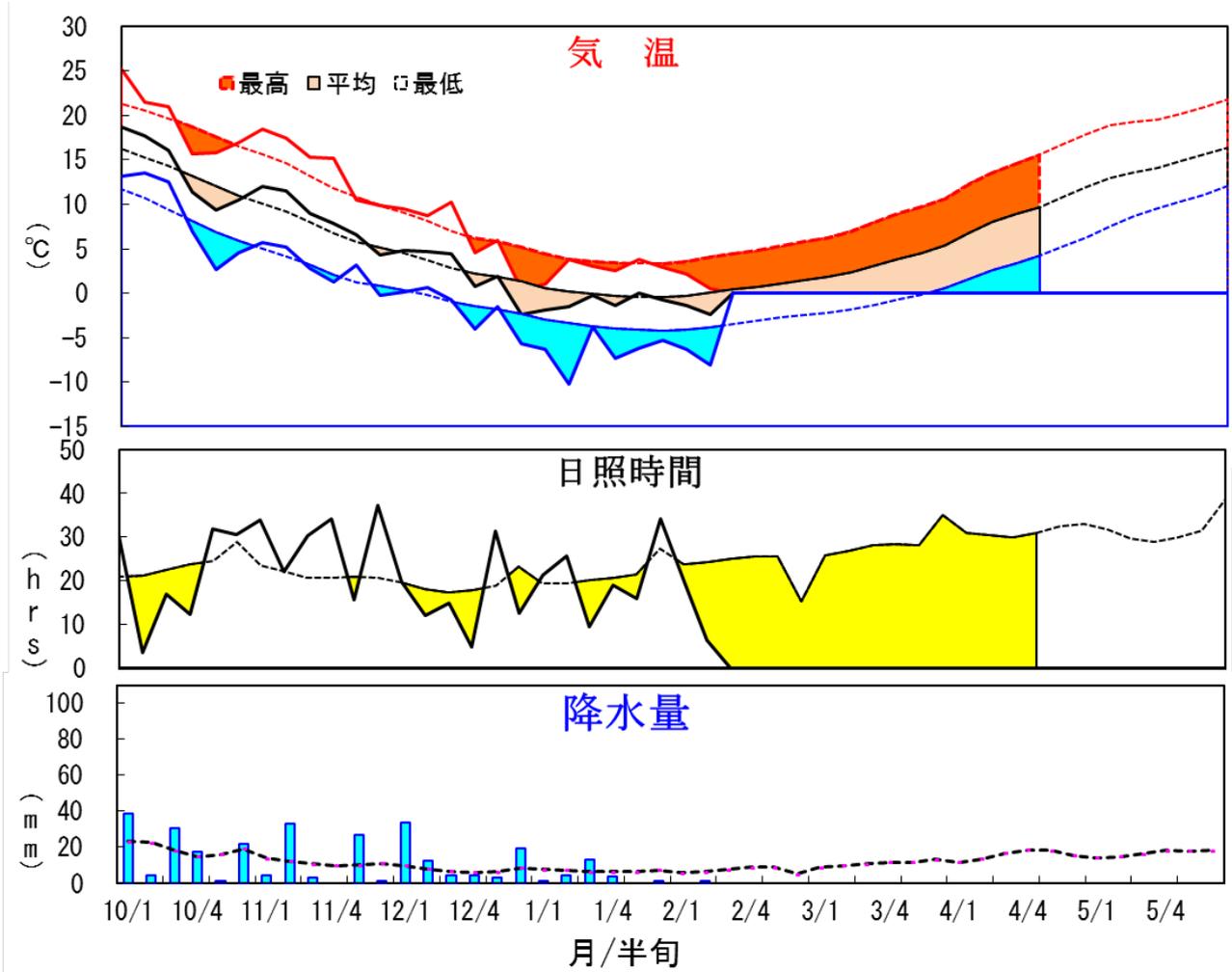


# 麦作情報第2号

令和4年2月10日：JA全農みやぎ

～播種が遅れたほ場では、莖数が不足気味！！～

## 1 気象経過



### ◆東北地方の1か月予報【2月5日～3月4日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・気温は、高い若しくは平年並みの確率 30%，低い確率 40%。

- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。
- ・日照時間は、多い確率 40%，平年並み若しくは少ない確率 30%。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)〉

【気 温】 東北地方	40	30	30
【降 水 量】 東北地方太平洋側	40	30	30
【日照時間】 東北地方太平洋側	30	30	40

## 2 生育状況

### (1) 古川農業試験場内作況試験ほ場 (12月15日現在)

- ・中旬播種区の生育量は、大麦・小麦ともに平年を上回り、概ね越冬前の目標生育量に達した。
- ・下旬播種区の生育量は、中旬播種区と比較すると草丈では 60～80%，茎数では 40～50%，葉数では 60～70%で、分けつは始まっているが、越冬前の生育量には達していない。

	品種・区分	草丈		茎数		葉数	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	平年比 (%)	本年 (枚)	平年差 (%)
大麦	シュンライ 中旬	11.6	108	594	108	5.3	1.1
	同 下旬	8	—	255	—	3.1	—
	ミノリムギ 中旬	12.6	114	577	108	5.3	0.8
	同 下旬	8.3	—	249	—	3.3	—
小麦	シラネコムギ 中旬	12.7	107	531	112	5.2	0.5
	同 下旬	10.4	—	252	—	3.7	—
	夏黄金 中旬	11.6	—	380	—	4.5	—
	同 下旬	8.5	—	191	—	3.2	—

### (2) 麦類生育調査ほ (12月15日現在)

- ・10月から11月にかけてまとまった降水が偏りなくあり、播種が遅くなったほ場も見られた。
- ・播種が遅かったほ場や、ほ場内に滞水が発生した所では、生育量が不足気味である。

	品種・区分	地域	播種期		草丈		茎数	
			本年 (月/日)	平年差 (日)	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	平年比 (%)
大麦	シュンライ	大河原	11/15	10	6.5	84	193	108
		桃生	10/10	▲ 11	19.1	184	864	292
	ミノリムギ	桃生	10/22	0	14.3	118	360	148
		大河原	10/25	—	7.8	—	182	—
	ホワイトファイバー	大和	11/1	—	6.8	—	153	—
小麦	シラネコムギ	古川	10/30	10	10.1	83	280	72
		鹿島台	11/3	1	7.2	113	124	38
	桃生	10/10	▲ 25	24.2	303	1104	440	
	夏黄金	涌谷	11/4	—	8.4	110	226	68

### (3) 現地ほ場 (12月15日撮影)

- ・10月中旬に播種できたほ場では、草丈は 10cm 程度で、概ね生育は順調である。
- ・明きよの設置されていないほ場では、湿害の影響で茎数不足の所も見られる。



【大崎市鹿島台 小麦ほ場】



### 3 今後の技術対策

#### (1) 排水対策

～～麦類は、湿害に弱い～～

- ・分げつ期の湿害は、生育抑制や分げつの減少につながる。
- ・排水が不十分だと、霜柱により根が浮き上がり、麦が枯死する場合もある。
- ・明きよの設置基準は、ほぼ5m間隔で、深さは20～30cmとする。
- ・生育が遅れているほ場では茎数不足となり、被害が大きくなるので早急に改善する。

#### (2) 麦踏

- ・麦踏は、茎数の増加、倒伏・凍上害の防止、耐寒性等の強化、生育の均一化に有効である。
- ・土壌湿度が高いと粘土質の土壌では逆効果になるので、乾いたときに行う。
- ・実施時期は、離乳期（3～4葉期）に1回、茎立ち期前までに2～3回とする。
- ・特に、冬季が乾燥・強風・暖冬の時には効果が高い。

#### (3) 追肥

- ・年を越し、融雪後は、越冬後の生育量を確保する追肥が重要になる。
- ・幼穂形成期の追肥は、有効茎歩合を向上させ、穂数の確保を目的とする。
- ・時期が遅れると追肥の効果が十分に得られないので、幼穂長を確認し適期に追肥を実施する。
- ・幼穂長2～3mmが目安で、この時期頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進む。
- ・この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合低下を招くが、一方で、過剰施用により節間伸長により倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努める。

#### 【麦類の追肥の目安】

追肥の種類 (生育ステージ)		株直し追肥 (融雪後)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的		茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期	シュンライ、ホワイトファイバー ミノリムギ	2月	2月下旬~3月中旬 3月上旬~4月上旬	4月下旬 4月下旬~5月上旬
	10a当たり 施用量	窒素成分1~2kg (硫安5~10kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	硬質麦防止のため 実施しない
小 麦	時期	2月	3月下旬~4月中旬	4月下旬~5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分1~2kg (硫安5~10kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分4~5kg (硫安20~25kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg) ※ 夏黄金は2倍

新技術の紹介【宮城県「普及に移す技術」第94号より】